

## 御影用水の観光、教育、啓発推進事業

### 取組に至る背景・事業の目的

御影用水は軽井沢町を水源とし、佐久地域北部を經由して小諸市まで流れているもので、370年前に整備され、現在まで用水を供給している。

近年、組合員の減少による維持管理や流域の住宅からの排水による水質悪化等の問題が起きており、用水の適正な維持に加えて、歴史的遺産としての観光・教育資源としての活用推進を目的としている。

### 事業内容

- 1 講演会の開催  
住民が御影用水と陣屋の歴史と文化を考える機会とするため、11回の講習会を実施、意識啓発と情報提供を行った。
- 2 SNSでの発信  
御影用水・千ヶ滝湯川用水の歴史と役割についてYouTube、フェイスブックで発信した。
- 3 電子教材の発行  
御影新田の道祖神祭りを紹介するためPVビデオを制作し、SNS及びDVDにより発信した。
- 4 啓発資料の作成  
御影用水について歴史や名所を紹介するリーフレット2,000部及びパンフレット1,500部を地域住民上流軽井沢町、御代田町住民に配布した。
- 5 史料館内の映像機器の整備を行い作成した御影用水及び道祖神祭の宣伝を行った。
- 6 小水力発電機の組立と用水での発電実験を行い、今後の千ヶ滝湯川土地改良区の将来の姿を啓発した。



### 事業効果

- ・ 上流域住民は、河川と用水の違いを、放流水の浄化、ごみの投入禁止、景観の保全、立木の伐採、転落事故防止、防災（越水被害防止）の意識啓発となった。
- ・ 下流域住民には、用水の恩恵（米作、畑作利用）や防火用水としての役割を理解することにより、用水浚いの必要性の啓発となった。
- ・ 学校、公民館活動の一環として学習することにより、地域の歴史的文化財としての重要性及び将来の農業振興についての啓発となった。
- ・ 関係する団体及び行政機関での研修により、未来を担う後継者の育成と共に維持管理の重要性の啓発となった。
- ・ 一般に広く御影用水と陣屋の情報が知られ、新田米、ブロッコリー等の農業生産物や直売所の存在が知られ新たな市場の開拓となった。
- ・ 天領の里御影用水史料館及び長野県指定史跡御影陣屋跡への来場者（令和4年度来場者92人）が増加し観光PRとなった。
- ・ 天領の里御影用水史料館の令和5年度の入場者数が令和6年2月5日現在289人と約3倍となった。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

今後作製した啓発資料により多くの住民に趣旨の理解を求め、用水の有用性と維持管理の重要性、さらには防災についての普及啓発を広範囲に広めて事業を実施する。

#### 【選定のポイント】

講習会の開催やパンフレット等の教材制作・活用により、御影用水について地域内外に広く啓発活動がなされ、認知度向上等の効果に繋がっている。

団体名 御影用水・陣屋応援隊	事業タイプ	ソフト・ハード事業
	事業費	1,038,960円
	支援金額	811,000円

## 地域住民と神科小学校児童による玄蕃山里山整備

### 取組に至る背景・事業の目的

玄蕃山は、上田市長島地区、上信越自動車道上田菅平インターチェンジの東側にある里山である。平成3年の高速道路開通に合わせて市の都市公園「玄蕃山公園」が設置されるとともに、地元住民の強い要望でマレットゴルフ場が設置された。しかしながら、急峻な斜面に設置されたマレットゴルフ場は利用者の高齢化により利用されなくなり、令和元年に閉鎖されることとなった。同公園の大部分は上田市が管理しているが、地元住民の要望で設置されたマレットゴルフ場は、閉鎖後も地元の長島自治会が草刈りなどの管理を担っており、跡地の活用と管理を担う次世代の育成が課題であった。

また、同里山に長距離移動するチョウ「アサギマダラ」の飛来地をつくろうと、地元の神科小学校と連携し、チョウが花の蜜を好む植物フジバカマの苗を植える取組を令和3年から進めてきたが、観察に来訪する市民等の増加に伴い、来訪者を受け入れるための案内等の整備も必要となってきた。

こうしたことから、アサギマダラを呼ぶ神科小学校との取組を発展させ、マレットゴルフ場跡地を小学校児童の自然学習の場として活用し、小学校児童とともに整備する取組を実施した。

併せて、アサギマダラ飛来地としての来訪者受入環境整備のため、看板等の設置を実施した。

### 事業内容

#### 1 玄蕃山 夢プロジェクト

##### (1) 玄蕃山マレットゴルフ場跡地 山道・遊歩道整備

地域住民と小学校児童が協力して斜面に階段を整備。材料には間伐した桜の木の枝や桜の木チップを使用。

##### (2) 「桜の木チップ 燻製づくり」

神科小学校の総合学習の支援として、本事業で購入した粉砕機（チッパー）で作製した桜の木チップを使い、ウイナー・ベーコン等燻製づくりを実施。

#### 2 玄蕃山 アサギマダラプロジェクト

##### (1) アサギマダラ観察会

地元住民、小学校児童が玄蕃山に集まり、アサギマダラの生態について学習。

##### (2) 案内看板設置

来訪者がフジバカマ畑に辿り着けるよう、入口に大型看板を設置。除幕式には地元住民だけでなく、小学校児童も多く参加した。

##### (3) 観賞用ベンチの設置

来訪者がゆっくりアサギマダラを鑑賞できるよう、ベンチを設置した。



【 山道・遊歩道整備の様子 】

### 事業効果

延べ200人以上の小学校児童が森林作業を体験した。また、今回の事業を通して地元住民と小学校児童との交流につながった。さらに、玄蕃山での活動が神科小学校の年間を通じた総合学習に組み込まれるなど、当該拠点が継続的に有効活用されていくことが見込まれる。

今後、活動に参加した地域住民や小学校児童たちが地域に愛着をもち、次世代の地域の担い手となっていくことが期待される。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

今回、遊歩道整備や野外学習については、NPO法人やまぼうし自然学校に講師を依頼したが、地域住民が参加しノウハウを学ぶことにより、補助金終了後も持続的に活動を実施できる体制づくりに努めた。今後も玄蕃山を地域住民の憩いの場や小学校児童の野外活動の場として活用できるよう環境整備を進めていきたい。

【選定のポイント】管理面で課題を抱えていた旧マレットゴルフ場を、地元の小学校・児童を巻き込んで維持管理するとともに、地元住民と小学校児童の交流につなげた点は、モデル的であり他地域への波及の可能性のある事業と考えられる。

団体名：長島自治会	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先：大田 一昭	事業費	1, 997, 342円
メール：ot0609@yahoo.co.jp	支援金額	1, 533, 000円

## 玉川山田どじょうプロジェクト事業

### 取組に至る背景・事業の目的

- ・ハヶ岳山麓の広大な農地を潤す『滝の湯堰・大河原堰』は、江戸時代に坂本養川が作り上げたものであり、『世界かんがい遺産 123 か所の一つ』に登録されている現役の重要な施設である。
- ・古来、毎年春には堰の整備清掃を目的に農民たちの手により『堰上げ（せぎあげ）』が行われ、泥と一緒に捕えられた『どじょう』を御馳走にして『どじょう祭り』の名で直会が催された。
- ・村の歴史、先人の偉業により作られた水路や水田をはじめとする農業との関わりを、子供たちが地域住民とともに学ぶという地域教育・環境教育を進めることを目的の一つとした。
- ・村内にある空き家古民家の内1軒をリノベーションして事業推進のための交流拠点に据えた。(第2ステップ=今回)
- ・重点テーマである 2050 ゼロカーボンにむけた取り組みの推進として、『堰水力を活かした水力発電』を実施し、将来に向けた自然エネルギーへの意識向上と発電事業実現への整備を目指す。
- ・地域の小学校、中学校の児童生徒への環境教育の一環として、どじょうの生態を学ぶ学習や水力エネルギーへの関心を高めることを目的とする。

### 事業内容

- 事業推進拠点『どじょうハウス阿弥陀亭』の完成と運営  
村内のボランティアにより古民家リノベーションが完成した。玄関には生きたどじょうが泳ぐ水槽を設置し、続く展示・解説室には堰と村・農業の歴史展示などがあり、どじょう料理や郷土伝統の馬肉料理なども楽しむことができる。(第2ステップ=今回)
- 『どじょうハウス阿弥陀亭』の多岐にわたる活用実績  
地域の交流拠点としての役割は多岐にわたり、地域住民による活用から他地域からの生徒の研修等の受け入れをはじめ更に活用範囲の幅が広がっている。
- 『堰水力を活かした水力発電の勉強会及び、水力発電による街灯の整備』に関わる事業を中心に据えて、ソフト&ハードの両面から事業を推進した。
  - ①水力発電装置キット「ピコピカ10」を地元小中学校の児童生徒が組立て設置し街灯を点灯させた。
  - ②江戸時代に先人の手によって整備された『大河原堰』を実地踏査しその重要性を体験した。



【玉川小学校・ピコ水力発電】

### 事業効果

- 江戸時代に整備された『堰による水の恵み』の有難さを、現代社会における『水力発電』というゼロカーボンエネルギーの側面から、又、実際の堰の踏査により『農業用水の大切さ』という側面からの両面で体験的にとらえることができた。
- 支援金により令和3年に整備した『どじょうハウス阿弥陀亭』の事業内容を更に充実させ、地域の活動拠点としての認知と役割を高めることができ好評を博している。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 取り組みにおいて、如何に幅広い年齢層とともに事業推進ができるか、また、地域住民にとどまらず如何に幅広い人的な交流を生みだすことができるかを主眼としてきた。
- 事業に関わった方々の生き生きとした姿を地元メディアの取材を受けながら積極的に発信することにより将来的な事業展開への推進力になるよう努めてきた。
- 地域内における『大河原堰水力の活用による小水力発電の可能性』を模索し形にしていきたいと考える。

### 【選定のポイント】

「どじょうハウス阿弥陀亭」を活用して地域の小学生向けに水力発電の勉強会や水力発電装置キットの制作を実施した。今後も同施設を活用した交流の促進が期待される。

団体名	玉川山田どじょうプロジェクト	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	守屋浩治 電話 090-9665-5088	事業費	783,180円
Mail	haikansha.moriya@gmail.com	支援金額	570,000円

## 富士見縄文推進事業

### 取組に至る背景・事業の目的

- 平成30年、令和4年と町が高校生を対象に実施したアンケート調査によると、「家族に、将来、富士見町に住み続けることをすすめられたことはあるか」との問いに平成30年は78.3%、令和4年では88%が「何も言われていない」と増加。また、「町に住み続けることをすすめられた」との回答が8.5%から5.6%まで減少した。
- 駅前商店街を中心とした地域住民協働による地域活性化事業を行うことにより多世代の交流を促進し、また地域住民が地元愛や誇りを持ち、地域の魅力向上を図ることを目的とした事業が必要であると考え、商店街を社会的・文化的中心となるように“ハロウィン”と地域資源である“縄文文化”を合わせた“縄文ハロウィン”を考案した。

### 事業内容

- 縄文フードフェア  
町内店舗に募集をかけ、縄文時代に主食にされていたとされる食材(栗・くるみ)を使用したフードの販売と、店舗を複数巡るような仕組みとしてデジタルスタンプラリーを実施
- 町民参加型非接触型コンテンツの作成 (LINE スタンプの発信)  
富士見町内の中学校、高校へスタンプ案を募り、また町民にはスタンプの文言を募り、LINE スタンプ作成と販売を実施
- 縄文キッズDAY  
縄文土器づくり、弓矢づくり体験イベントの開催
- 縄文ハロウィンイベント  
ジャックオーランタン作りや縄文ハロウィンホコ天祭り（商店街を歩行者天国にし、ミニステージや店舗出店、商工会からの出し物によるイベント開催）
- イベント情報の発信、映像の集約  
縄文フードフェアの紹介やイベントの開催の告知を発信・また写真・映像で記録し、内容の発信
- 地域住民“縄文”への意識高揚を図る  
地域住民に対し“縄文”への意識高揚を図るため、タペストリーとのぼり旗を駅、商店街、町内公共施設等に100本設置



【縄文ハロウィンの様子】

### 事業効果

- 出店店舗による縄文フードフェアが例年のイベントとして定着してきている。今回はデジタルスタンプラリーを実施することでお客様が店舗を複数行けるきっかけが作れた。
- LINE スタンプは町内の中学生や高校生に協力を仰ぐことで、商工会でやっているイベント等に触れ合うきっかけ作りとなり、富士見町の縄文人“ムサイさん”の知名度も向上してきている。
- 駅前商店街が10月は“縄文”をコンセプトとして、新たな顔になってきているおり、商店街の店舗協力の機運が高まった。また子供たちの発表の場やクラスで出店をし、自分たちで盛り上げる楽しさも見つけており、地域住民協働による地域活性化事業になってきている。
- HP から“縄文推進事業”をいつでも閲覧できるようになっており、より効果的な情報発信を行なうことが出来た。商店街や駅町内施設には9月半ばからタペストリーやのぼり旗を設置し、早い段階より“縄文”や“縄文ハロウィン”、“富士見町”に対しての意識づけが図られていた。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

イベント事業にLINEやインスタグラム、youtubeを活用し、各種アカウントに触れるきっかけ作り、富士見町に居なくても富士見町を知ってもらうことができた。今後はホコ天祭りを商店街の店舗を中心にしつつも、他団体とも協力して協働事業を行ったり、地元を離れた若者や女性、また今後IターンJターンになるであろう町外の人々にも周知が出来る仕組みを作り、発信しながら地域文化や歴史を紐解き、地域住民が富士見愛や誇りを持って取り組める環境づくりに取り組んでいく。

#### 【選定のポイント】

縄文文化をテーマとした様々なイベントを地域一体となって開催しており、多世代の交流を促進や、地域愛の醸成、地域の魅力向上が期待される。

団体名	富士見町商工会	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	0266-62-2373	事業費	4,825,059円
HP	<a href="https://fujimi-ts.org/">https://fujimi-ts.org/</a>	支援金額	3,705,000円
Mail	fujimi@fujimi-ts.org		

## 狩猟シミュレーションを利用した新規捕獲技術者の発掘・育成事業

### 取組に至る背景・事業の目的

木曽猟友会は木曽地域の狩猟者の団体で、昭和 50 年は会員 950 名だったが、令和 4 年には 258 名と激減している。もともとは狩猟を趣味とする狩猟者の団体だったが、現在は有害鳥獣の被害対策や、出没した鳥獣の捕獲、追い払い等の公共活動に従事し、地元自治体や警察などに協力している。

しかし近年は会員の高齢化等に伴い会員減少が顕著であり、活動継続の大きな課題となっている。課題解決には木曽地域に住む若い人材に、狩猟に興味を持ってもらうことが重要ではあるが、猟銃は狩猟免許や猟銃所持許可がないと触れることができないという制約がある。

今回の事業では、実際の猟銃の疑似体験ができるシューティングシミュレータを活用し、狩猟や射撃の疑似体験をすることにより、若い世代に興味を持ってもらい、新しい担い手確保を図るものである。

### 事業内容

狩猟体験講座や、銃猟初心者技術向上講座を実施し、新しい担い手を確保できるとともに、捕獲技術者としての会員確保を行う。

実際の猟銃にそっくりなレーザー機器を使うシューティングシミュレータを活用することで、郡内中学校、林業大学校などで環境学習や、野生鳥獣と人との関係を正しく学ぶ地域課題の学習を行い、学生の地域貢献への意識の高揚に興味を持ってもらった。

また、一般住民への講座、JA 祭り等でも活用することで、若い世代に狩猟や射撃に興味を持ってもらった。

購入機材に「令和 5 年度 長野県地域発元気づくり支援金」と表示し、講習会、イベントで使用の際には際には、「令和 5 年度 長野県地域発元気づくり支援金を活用」と記載した看板等を見やすいところに掲示した。

木曽国際射撃場ホームページにも掲載し、本事業の普及と実績の啓発を行っていた。



【 シミュレータを活用した体験講座 】

### 事業効果

1. 狩猟、射撃の疑似体験をすることで、若い世代に興味を持ってもらうことができた。  
新規銃猟所持希望者が 5 名確保することができた。
2. 猟友会の活動と必要性について理解してもらった。  
学生からも猟友会の活動がわかってよかったとの意見をもらっている。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

今後においては、郡内だけではなく、活用できる場を広げて発信し、猟銃の安全な使用や技術の伝承のための講習会を継続的に実施していく。

また、猟友会への理解も深めてもらい、若い世代の会員確保につなげていく。

#### 【選定のポイント】

シューティングシミュレータの導入により、郡内町村において講座が開催され、狩猟免許の取得に繋がっている。また、郡内中学校においても体験講座が実施され地域貢献への意識の醸成や後継者育成が図られた。

団体名 木曽猟友会	事業タイプ	ハード事業
連絡先 事務局 0264-24-2211 (内線 2445)	事業費	1, 610, 600 円
メールアドレス kiso-kokusai@polka.ocn.ne.jp	支援金額	1, 207, 000 円

## 木曾から発信する人と猫との共生社会実現

### 取組に至る背景・事業の目的

木曾ネコ会は2021年に木曾郡域の環境被害対策として、猫問題に取り組むために設立された。地域住民と飼い主のいない猫との共生を掲げ、不妊去勢手術の実施や新しい飼い主探しなど、猫の殺処分ゼロを目指している。

TNR活動(※)を木曾郡各地で実施する中で、孤独な高齢者や生活保護世帯が不適切な給餌により猫を増やしているという状況が多くあり、社会福祉協議会とも連携しながら、猫にまつわる地域課題を地元住民と共同して解決するため、獣医師による講演会や勉強会を開催し、子供たちにも授業などを実施している。

### 事業内容

木曾地域では、野良猫問題が多くあり、令和4年度は元気づくり支援金の採択を受け、木曾ネコ会では様々な啓発活動と地道な地域猫活動を行ってきた。その成果と必要性が認められ木曾町では猫の不妊化助成制度が制定された。これを受け、また新たに「人と猫とが共生できる命に優しいまちづくり」を展開させていくため、野良猫の不妊去勢手術を実施した。また、勉強会や子供たちに対する授業、フォトブック、地域猫活動啓発ポスター、チラシなどを作成し、各所に猫トイレ、オリジナルの猫ハウスを設置。地域猫活動についての理解を地域住民に広く伝える対策を行った。



【 TNR活動の様子 】

### 事業効果

- ① 支援金を活用して、猫トイレ・猫ハウスの設置をし、地域猫活動を木曾地域全域に広げる様々な啓発活動をしたことで、勉強会を依頼され、ケーブルテレビ出演など発表の機会が増え、地域への周知が出来た。
- ② TNR活動(※TNRとはT…Trap(捕まえて)N…Neuter(不妊化手術をして)R…Return(元の場所に返す)の略。)により、新たに不幸な命を作らない活動が出来た。
- ③ 様々な活動の成果により、知名度が上がる事でさらに相談数が増えてきた。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

今後はさらにメディアと連携し、地域×ネコ活動で選ばれるSDGsな地域づくりをしていく。TNR活動や啓発活動と並行して保護できる猫の譲渡にも力を入れ、保健所への猫の持ち込み数を減らし、殺処分ゼロを目指す。行政との連携を働きかけ、行政・地域一体となった地域猫活動を行っていく。

保護猫との暮らしと住居の提案のためのリーフレットを作成し、それを観光客の目につきやすい場所へ設置。他地域にも「命に優しい町づくりをしている町」をアピールでき、観光客や移住者の呼び込みに繋げていく。将来的には売り上げを猫の保護活動に充てられる猫グッズを置いたショップを開店させたい。

#### 【選定のポイント】

野良猫対策としてTNRを行っており、木曾地域の野良猫問題の改善に取り組んでおり、動物愛護行政にも協力している。地域猫活動については、地域住民の理解が十分でない面もあるので、今後も継続して啓発を行っていただきたい。

団体名 木曾ネコ会	事業タイプ	ソフト事業
連絡先 唐沢 陽子 (080-3530-6419)	事業費	1,822,000円
メールアドレス piqln01467@yahoo.co.jp	支援金額	1,455,000円

## 松川河川敷 東日本台風災害からの復興の推進事業

### 取組に至る背景・事業の目的

令和元年東日本台風災害により松川河川敷の「松川四季の道」が一部損壊した。松川河川敷の復興や利活用の促進を目指し、地域住民が一体となり清掃・草刈り作業等の原状回復や、小学校児童と協働しスイセンの植付け、芝生の張付け、「四季の道に咲く花々」の景観看板・名称看板の作製などを実施してきた。

令和5年度は、これまで整備したエリアを活用し、ウォーキング教室・アトラクション（巨大迷路など）・芝生の張付け作業を実施し、地域住民の心安らぐ空間として発展、定着させる。

### 事業内容

- 「松川四季の道」・河川敷の維持管理と環境整備  
維持管理・清掃・草刈り作業  
年間 11 回実施、ボランティア延べ 162 人参加
- 乗用草刈機・ビバー取扱説明会  
6 月 25 日（日）・11 月 22 日（日）開催  
各回 5 名参加
- 巨大段ボール迷路の製作
- ウォーキング教室・ダンボール巨大迷路・芝生張付け  
10 月 27 日（金）に旭ヶ丘小学校 5、6 年生 67 名、教師 3 名、PTA・地元住民 18 名、ボランティア 18 名の合計 106 名が参加したイベントを開催



【ウォーキング教室の様子】

### 事業効果

- 河川敷の維持管理作業、ビバーの取扱説明会をとおり、今後の維持管理のための後継者養成に手応えを感じた。
- ウォーキング教室、ダンボール巨大迷路、芝生張付けを一体のイベントとして実施し、地域の憩い場としての河川敷「松川オアシス」の多様な楽しみ方を提案することができた。
- イベント終了後には児童が芝生でサッカーを楽しむ様子や、地域住民が憩いの場として活用している実態が見て取れた。

### 工夫・苦勞した点、課題、今後の取組など

- 地域の資源を継続的に維持するためには、地域住民が河川敷に愛着を持つことが必要であり、そのための取組として、子ども世代である地元小学校等と連携して事業を実施した。
- 今後も環境整備・維持管理を継続的に実施するため、ボランティア参加者の増大、後継者育成に努め、地域にとって誇りある憩いの場となることを目指す。

#### 【選定のポイント】

河川敷の整備や地域イベントに地元小学校児童・PTA や地元住民の方が多く参加し、子ども達のふるさとへの愛着を深めるとともに、河川敷環境の更なる向上につながる取組となった

団体名	旭ヶ丘地域づくり推進プロジェクト	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	026-246-3783	事業費	1, 777, 182円
		支援金額	1, 384, 000円

## 筋トレ及びストレッチで健康寿命延伸事業

### 取組に至る背景・事業の目的

地域住民が新型コロナウイルス感染症の予防のため出歩くことが少なくなり、運動機能の低下やフレイルの加速に繋がることが懸念された。

健康づくりに加えて高齢者の居場所づくりを目的に、地域住民が気楽に目的をもって参加できるような活動を行った。

### 事業内容

着実に進行している高齢化社会において、高齢者の健康寿命延伸が、保険、医療、福祉の充実に重要と考えて、気軽に参加できるストレッチ教室を開講した。

参加費1回200円(約70分)

令和4年度には、1年間に175日・366回を開催、累計参加者数は7830名、令和5年度は+917名の8747名と、高齢化社会の切実な需要を感じている。

また、事業自体を成長させるため、積極的にスタッフの勉強会を実施して、安全性と快適性を追求した。



【参加人数が過去最高を記録した日】

### 事業効果

令和6年1月のアンケート結果(回答者99名)では、参加者にとって以下のような改善効果を確認できた。

- |         |          |       |          |
|---------|----------|-------|----------|
| ・肩こり    | 36名(36%) | ・腰痛   | 22名(22%) |
| ・膝痛     | 18名(18%) | ・筋力   | 43名(43%) |
| ・体力     | 47名(47%) | ・生活習慣 | 39名(39%) |
| ・他にコメント | 30名(30%) |       |          |

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

令和5年度の1年間で向上した筋力や体力をベースに、令和6年度は正しく歩くことを重点的に指導する事業に取り組んでいく。

また、教室の安全性と快適性を追求する過程において、会場であるエコールみよたと、災害時に役に立てそうな運営方法を協議できたことから、高齢者の健康寿命延伸だけでなく、社会全体に貢献できるような事業の両立を、目指していきたいと考えている。

#### 【選定のポイント】

通年で運動教室に多くの参加者を集め、住民に対して運動機会を提供することにより、フレイル対策・健康づくりに貢献した。

参加料を中心に一定の収入を確保しており、経済的自立に向けた期待が高い。

団体名 ちょこっとストレッチ教室	事業タイプ	ソフト事業
	事業費	2,828,465円
	支援金額	1,118,000円

## 医療的ケアを必要とする患者の災害支援事業

### 取組に至る背景・事業の目的

在宅で医療的ケアを必要とする患者や家族は、毎日の療養に精一杯であり、災害対策について考え、備える余裕がなく、漠然と災害に遭ったらどうしようかと日々を過ごしている。

災害時、医療的ケアが必要な患者は、特殊で高度な医療ケアが必要なことから、避難所への避難はもとより、多くの患者が押し寄せる医療機関への避難入院も困難なことが予想される。

そこで、医療的ケアを必要とする患者の災害支援の先進事例を学ぶ講習会や非常用電源を活用した在宅避難体験会をとおり、災害に対する不安感の解消と、防災意識の向上を図る。

### 事業内容

- 医療的ケアを必要とする患者の災害対策研修会  
場所：千曲市総合観光会館  
日程：令和5年6月25日（日）13時～16時  
規模：参加計68名  
内容：災害対策の取り組みについての講演と交流会
- 非常用電源・機器を用いた停電を想定した在宅避難の体験会  
日程：令和5年9月17日（日）13時～15時  
規模：モデルとなる人工呼吸器装着者宅にて20名  
※その体験会を支部だよりや交流会で報告・紹介し、防災・避難訓練を行う重要性を継承し、災害対策に生かしていく。



【在宅避難モデル体験会】

### 事業効果

- 研修会では現地参加50名、オンライン参加18名、計68名に医療的ケアが必要な患者への災害対策の研修を行い、その重要性を学び、取り組むきっかけとなった。
- 非常用電源、機器を用いた停電を想定した在宅避難の体験会にはモデルとなる人工呼吸器装着者の関係者18名が参加した。また、令和5年11月19日の秋の交流会では現地63名、オンライン30名、計93名に体験会の報告や紹介ができた。また、支部だよりNo.37 災害対策特別号を令和6年1月に発行し会員・会員以外（医療関係者・保健所・新規の患者等）を含め100名以上に体験会の取り組みや中部電力パワーグリッドの停電時の対応、災害伝言ダイヤルの活用、非常用電源等支援金を活用した機器の貸与について紹介・周知した。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

今回の取り組みをきっかけにして、今後も継続的に医療的ケアが必要な患者の災害対策に取り組んでいく。

- 個々の自助・共助を強化するため、在宅避難や避難場所への避難訓練を実際に行ったり、非常用電源・機器・備品を準備しておく。
- 個別避難計画作成にあたっては、行政や支援関係者と共に実効性のあるものに作り上げ、定期的に見直しを行っていく。
- 支部の備品（非常用電源、呼吸器用バッテリー、バッテリー付き吸引器）の貸出を行っていく。
- モデル体験会をYouTube動画として発信し、参考にしていただく。

#### 【選定のポイント】

在宅での医療的ケアを必要とする患者や家族が、災害対策について考えるきっかけになるとともに、行政機関や他の研修会でも先駆的な取組として取り上げられるなど、今後の展開が期待される。

団体名	日本ALS協会長野県支部	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	026-263-6335	事業費	496,198円
ホームページ	<a href="https://als-nagano.jp/">https://als-nagano.jp/</a>	支援金額	384,000円

## 流域文化祭『水記祭』

### 取組に至る背景・事業の目的

王滝村の現在の人口は 680 人、高齢化率 43% という人口減少、高齢化が顕著な自治体である。少子化も深刻で、中学校は隣の木曾町に統合する形で休校となった。若い人存続の危機にある文化的行事に協働する形で、都市部のアーティストを募った形で文化祭を開催。地元行事を維持してだけでなく、多様な文化や表現が王滝村の住民性と混ざり合い、行事が活性化される。

過疎地域において移住者を増やすことは重要な課題であるため、地道に「関係人口」を増やし、また関係人口同士で様々な文化を通じて交流し、地域の発展を促す。

### 事業内容

東京や京都で活躍する画家や演劇作家、俳優など様々なアーティストが王滝村や流域に滞在・リサーチし秋の小学校や公民館と同時開催する展示会やイベントで作品を発表する。また滞在期間にワークショップを開催し村民と交流も行う。それらの活動の記録事業も行なった。

- ・アーティストの滞在：5月～12月
- ・美術ワークショップの開催：8月、12月  
王滝小学校と王滝村公民館で開催 計 77 名参加
- ・流域文化祭「水記祭」の開催：10月～11月  
村内の空き家、空き施設で展示 約 210 名の来場
- ・広報と記録事業 7月～1月  
パンフレット、情報メディア note の作成、記録集作成



【 ワークショップの様子 】

### 事業効果

- ①ワークショップを小学校で開催させて貰うことで子どもや村民が多く参加することができた。小学校の授業の枠を使った事もあり、普段とは異なる外部からの専門分野の講師が来ることに子どもたちの満足感も高かった。
- ②小学校と公民館とで協働して文化祭を開催する事で小学生が実際に作品を作ったアーティストと展示会を回る鑑賞会を全体のプログラムに組み込む事になった。3つの組織がそれぞれの特色を活かしながら協働した文化祭となった。
- ③滞在したアーティストが夏祭りの準備のお手伝いをしたり、ステージに演者として出演したりし、高齢化で人手不足になっている行事の維持に貢献する場面も見られた。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

本プロジェクトに参加した5組7名のアーティストには今後も様々な形で王滝村と関わっていけるようにイベントやワークショップの開催をしていきたい。王滝村が連携協定を結ぶ長野県立大学の学生にアートを村で教え、最終的に公民館祭で展示することも来年度には計画されている。

また王滝村の祭をテーマにした演劇、牧尾ダムと愛知用水でつながる流域をテーマにした演劇の公演は村民からの評価が高く、来年度はより村民からの協力者を募り、演劇イベントの開催も続けていきたい。

#### 【選定のポイント】

都市部の芸術家が村に長期間滞在することで、小学校でのワークショップ開催や展示会での作品発表のみならず、芸術家が地域の夏祭りに参加するなど、相互の文化交流が図られた。単発のイベントに終わることなく、今後も様々な形で交流を深め良好な関係を維持し広げることにより、芸術文化を核とした「関係人口」の創出が期待できる。

団体名	僕らのルネッサンス実行委員会	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	近藤 太郎 (080-6765-2669)	事業費	1, 9 9 8, 3 8 2 円
メールアドレス	tao0616sol@icloud.com	支援金額	1, 5 6 6, 0 0 0 円

## 幕岩地域景観改善事業

### 取組に至る背景・事業の目的

幕岩地域はかつて鉄平石の採掘が行われていた場所で現在は何も使用されず荒廃していた。この場所は桑原城址や諏訪の市内が見下ろせ、雨上がりなど自然条件が整えば雲海も発生する。また鉄平石の採掘跡は大きな石の壁となっており迫力がある。この場所を新たな景勝地にして訪問者の増加、市民の遊び場等に活用することで地域の活性化につながると考え整備事業を実施した。

### 事業内容

- ・事業実施団体東山地域里山活性化プロジェクト発足会員 18 名
- ・不法投棄廃棄物の片づけ 2 回実施
- ・雑木の伐採 6 月、8 月、10 月 3 回実施 総勢 80 名参加
- ・道路の復旧整備、駐車場整地 9 月、11 月実施
- ・ベンチづくり、薪づくり 4 回実施
- ・原木シイタケ体験イベント開催：R6. 2.23 実施  
普門寺公民館 40 名参加



【 伐採の様子 】

### 事業効果

- ・支援金を活用して整備を行うことができた。整備には 80 名を超える地元の人たちが参加した。
- ・10 月地元への中間お披露目会を実施し 40 名以上が参加した。複数の新聞社にこの活動を記事に取り上げてもらったことで地元はもとより中州公民館からも来期活動で訪問したいと連絡が来た。
- ・他団体からの要請で幕岩ライトアップを 2 日間共同開催し 100 人超の来訪があり認知度が向上した。
- ・原木シイタケ菌打ち体験会を開催し小学生親子が 30 人参加して自然への興味を高めてもらうことができた。すべての家族から来年も継続してほしいといわれた。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- ・整備前は不法投棄による廃棄物が多数あり処理に苦労したが市の支援を受けることで処理できた。
- ・岩盤をより迫力のある景観にするため自生した実生木を伐採したが広範囲であったため時間がかかったが地域の方々の協力により実施できた。伐採はチェーンソーを使うため県の特別講習を受講し怪我なく実施することができた。また伐採した木材は公園のベンチや薪として再利用することができた。
- ・今年度は道路や広場などの整地を行うことができたが来年度は公園として完成させるために施設（休憩所、トイレ、案内板、展望デッキ等）の設置をおこない、植樹等もして来園いただいた方たちに喜んでいただけるものにしていきたい。
- ・我が団体は発足後まもなく活動資金が少ない状況にあるが、地域の財産区や区等から活動に賛同いただき支援をしてもらうことができた。今後は公園を完成させた後でも維持管理していかれるネットワークの構築を目指し、資金作りにおいても薪の販売や公園でのイベント等により捻出していきたい。
- ・今後、幕岩地域近傍の史跡へのルートの開発、整備を行い散策ルートの拡大を目指していきたい。

#### 【選定のポイント】

幕岩地域の雑木伐採や整地を行い、エリア一帯の環境整備や景観改善を実施することで、観光資源や地域住民が集まる場としての活用が期待される。

団体名 東山地域里山活性化プロジェクト	事業タイプ	ハード・ソフト事業
連絡先 090-9665-5957	事業費	1, 446, 054円
メールアドレス fxu40340@po32.lcv.ne.jp	支援金額	1, 102, 000円

## 日本有数のハッチョウトンボ生息地の環境整備事業

### 取組に至る背景・事業の目的

- 伊那市富県上新山地区にある「トンボの楽園」は、日本有数のハッチョウトンボの生息地であり、他 40 種ものトンボがみられる貴重な場所である。
- 年間を通して多くの観察者が訪れている。
- 平成 18 年に設置された木道が、経年劣化により腐食が進み、腐食堆積物や枯れた草木の堆積物が水の流れをせき止め、ハッチョウトンボの生育範囲を狭めている状況であった。
- 早急に生育場所を広めるとともに、安全で広範囲の観察ができる環境を整備するため、現在の生育状況に合った歩道の延長整備を行う。
- 令和 3 年度から本支援金を活用し、3 年計画で歩道の改修を進めてきた。

### 事業内容

- 歩道設置工事
  - ・実施時期：令和 5 年 10 月 16 日(月)～12 月 15 日(金)
  - ・内容：歩道設置工事の継続及び、歩道の先にある湧水を乾燥地帯へ流す工事
- 観察会・学習会等の開催
  - ・5 月 27 日(土) トンボの楽園草刈り・環境整備
  - ・7 月 2 日(日) 観察会 (参加者：231 名)
  - ・7 月 6 日(木) 新山・富県保育園合同観察会 (参加者：40 名)
  - ・7 月 10 日(月) 新山小学校観察会事前学習会・観察会 (参加者：21 名)
  - ・7 月 22 日(土) 伊那市ミヤマシジミ保護の会観察会 (参加者：39 名)
  - ・7 月 29 日(土) 諏訪市教育委員会 視察研修会 (参加者：45 名)
  - ・11 月 11 日(土) 秋の草刈り・環境整備 (参加者：45 名)



【改修された遊歩道】

### 事業効果

- ハッチョウトンボの生息場所が年々移動するため、歩道もそれに対応して設置する必要があった。現在、一番生息している場所への歩道を設置し、より効果的な観察を可能にしたことで、自然保護活動を広く啓発する環境づくりが行われた。
- 5 年度は、報道機関や市内公民館及び市内小学校に、広く周知を行い、例年以上に訪問者が増えた。諏訪市教育委員会や伊那市ミヤマシジミ保護の会の訪問もあり、活動が幅広く知られるようになった。
- 地元小学校の観察会では、講師を招いての事前学習会を併せて実施し、学習効果が向上した。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 運営資金をどうするかが一番の課題であったが、80 名もの賛同者と共に会を組織し、行政からの支援を得て歩道の改修工事に取り掛かることができた。
- 絶滅が危惧されている、このハッチョウトンボは、湿原であればどこにでも生息できるものではなく、汚染されていないきれいな湧き水と縄張りを作る小さな水たまり、そして大きく成長しない植生(水草)が絶対必要条件となる。2ヘクタールにも及ぶ水の管理と、森林化を防ぐ草刈りは年間を通して取り組まなければならない大変な作業であるが、会の賛同者と共に作業に取り組んでいる。
- 維持管理及び観察会開催に困難をきたしたコロナ禍が過ぎ、訪れる人は年間を通して多くなっている。県外から度々訪れる訪問者もあり、活動が広く知られるようになったことを実感している。諏訪市では教育委員会が主催で市民を集め観察会を定期的に開催する運びとなった。
- 今後の取り組みとしては、この貴重な環境維持と訪問者が安心してゆっくり休める施設整備が必要であると考える。訪問者が安心して観察できる休養施設の充実を図りたい。

### 【選定のポイント】

ハッチョウトンボの生息地の変動を踏まえて歩道の改修を進めたため、より効果的な観察会になった。また、市内外から多くの観察者が訪れ、市内の魅力として広く周知されるとともに、自然保護活動の啓発にもつながった。今後も地域が一体となって生育環境の保全に努め、持続可能な活動が行われることが期待できる。

団体名	新山トンボの楽園を育てる会	事業タイプ	ハード事業
連絡先	0265-72-5816 xingrenb@gmail.com	事業費	2,023,164円
		支援金額	1,348,000円

## 鹿島川左岸堤防遊歩道整備事業

### 取組に至る背景・事業の目的

鹿島川左岸堤防は北アルプスの眺めがよく、観光客等が鹿島川の清流と北アルプスの山並みを撮影するために訪れるが、足元の状態が悪く、移動に苦慮する姿が見られる。

鹿島川左岸堤防に遊歩道を整備することで、堤防からの眺めを観光資源として活用し、地域の活性化につなげることを目指す。

### 事業内容

- 遊歩道を整備し、テーブル、椅子、花台等を設置  
(7月～10月)
  - ・重機作業等は専門業者に依頼したが、できる限り会員等が行った。
  - ・地区内外から多くのボランティアが作業に参加。テーブル、椅子等の組立及び防腐剤の塗布には、近隣の小中学生も参加した。  
(令和5年度は、全体の3分の2の整備を実施)



【整地作業】

### 事業効果

- ・堤防の整地完了後、周辺宿泊施設の宿泊客や散歩、ランニング等に利用する人の姿が見られ、全線開通が待ち望まれている。
- ・地区住民、近隣住民、周辺観光施設等にも参加を呼び掛け、地域ぐるみで整備を行うことで、地域のつながりが深まることが期待できる。

### 工夫・苦勞した点、課題、今後の取組など

残る区間について、地区内外の住民や近隣の小中学生にも参加を呼びかけながら、引き続き整備を行う。

整備後も、さらに魅力ある遊歩道とするため、環境保全のための定期的な草刈りや景観形成のための植栽等に取り組む。

全線開通後のイベントの開催等、周辺宿泊施設と情報交換を行いながら、他では実施していないインパクトのある企画を検討していく。

#### 【選定のポイント】

鹿島川左岸堤防からの眺めを楽しめるよう、地域住民や近隣の小中学生の参加も得て、堤防に遊歩道を整備した。引き続き地域住民等と協力して残る区間の遊歩道を整備し、遊歩道をイベント等で広く活用することで、来訪者の増加や地域の活性化につなげることを期待する。

団体名	はなみフラワーズ	事業タイプ	ハード事業
連絡先	大町市平999-1	事業費	2,123,000円
		支援金額	1,592,000円

## 地域密着型交通システム（シェアサイクル）の構築支援事業

### 取組に至る背景・事業の目的

しなの鉄道沿線エリアは、豊富な観光資源が点在しているにも関わらず、そこを繋ぐ二次交通がないことで地域のポテンシャルを活かしきれていない。また、地域住民の足となる地域交通に関しても十分とは言えない状況である。

上田市においては、これまで放置自転車を利活用した「まちなかレンタサイクル」を実施しており、年間約 2,000 人が利用していたが、コロナ禍において対面式（有人）による貸し出し方法等が課題となってきたため、令和 3 年度から信州地域デザインセンター（UDC 信州）、千曲市と連携した社会実験としてシェアサイクルへの移行を実施し、シェアサイクルが本地域においてどのような場面で役割を果たすことができるのかを検証してきた。

令和 5 年度は、3 年間の社会実験の最終年となるため、3 年間の成果と課題をまとめ、令和 6 年度以降の本格導入に向けて方向性を定めるべく事業を実施した。

### 事業内容

・令和 5 年度「上田市・千曲市広域シェアサイクル社会実験」の実施

【期間】令和 5 年 4 月 1 日～12 月 17 日

【場所】上田市内 16 箇所のサイクルポート

【規模】自転車 45 台（全て GPS、電動アシスト付）

【主な取組】

- ・利用促進に係る広報 PR 活動（試乗会の実施、イベントにおけるブース出展等）
- ・地元経済活性化に向けた地元商店との連携企画の実施（シェアサイクルでお得にお店巡りキャンペーン）
- ・地元高校生との連携（商業施設や高校での試乗会の開催、サイクルポートの提案や交渉）

【その他】

- ・改正道路交通法の施行（4 月 1 日～）に伴うヘルメット着用努力義務化に対応し、利用者への啓発に努めるとともに、観光会館・上田駅・下之郷駅・別所温泉駅の有人バス販売窓口にて、ヘルメット無料貸出サービスを実施した。



【地元高校生をモデルとしたシェアサイクルでの  
塩田平・別所温泉 周遊動画の撮影】

### 事業効果

令和 5 年度は、当初の目標である利用回数 7,200 回を大きく上回る 9,755 回の利用があった。この要因としては、市街地での利用が非常に伸びたほか、地元商店と連携した取組等を通じて、まちの活性化に寄与することができたものと考えられる。

上田駅を中心に鉄道駅での利用が非常に多いことや、アンケート調査の回答で「シェアサイクル前後での交通手段」として鉄道が 62%と最も多く、バスも 15%いたことから、既存の公共交通と連携した移動手段の提供ができたものと考えられる。

令和 5 年度の総走行距離は 4 万キロを超えており、マイカーから転換して利用している方が一定数いることから、CO2 の削減にも寄与できたものと考えられる。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

3 年間の社会実験を通じて利用回数の増加と様々な分野への波及効果が認められたため、令和 6 年度以降、社会実装として事業を継続していく。また、まちの活性化を図るツールとして、地元商店街等との連携企画やサイクルポートの増設などを検討する。さらに、既存の公共交通との更なる連携強化のため、鉄道駅へのサイクルポートの増設や、公共交通の定期券とシェアサイクルの月額利用をセットで販売する取組などを実施する。今後も持続可能な事業となるよう、様々な媒体で積極的に利用促進を図る。

【選定のポイント】地元商店街と連携したお店巡りイベントの実施など、シェアサイクルの利用を単なる移動手段としてだけでなく、商店街の振興につなげた点はモデル性が認められる。また、令和 6 年度には別所線との連携等事業をさらに発展させており、支援金終了後の発展性が認められる。

団体名：上田地域シェアサイクル活用推進協議会	事業タイプ	ソフト事業
連絡先：事務局 上田市都市計画課	事業費	10,995,988円
メール：tosikei@city.ueda.nagano.jp	支援金額	3,009,000円

## 「ロケ地」を活用した諏訪エリア観光周遊事業

### 取組に至る背景・事業の目的

諏訪地方観光連盟が進める諏訪圏フィルムコミッション事業では、平成18年度から合計1,000件以上のロケ支援を行っており、ロケ隊の滞在・工事費用等の直接的効果だけでも、多くの経済効果を生み出してきた。当連盟の主目的である観光客誘致についての取り組みは、過去のロケ地の資産活用を含めて更なる経済波及効果を生み出す可能性を秘めている。

そこで、本事業においては、2022年中に諏訪エリア約30箇所で開催された映画「怪物」(是枝裕和監督)に特化した取り組みを展開することで、諏訪地域の認知度の向上・映画ファン・ロケ地ファンの増加を図った。更に、ロケ地の観光周遊の課題であった二次交通について、ロケ地周遊にサイクルツーリズムを掛け合わせた取り組みを行うことで、課題解決を図りながら、自転車による移動そのものを体験アクティビティとした楽しみ方の提案を行い、滞在時間の延長・長期化とそれに伴う消費拡大による地域経済効果を高めることを目的とした。

### 事業内容

- ①映画「怪物」ロケ地MAP作成・ロケ地特設サイト構築
- ②映画「怪物」是枝監督トークショー・映画ゆかりの小道具づくりワークショップ・諏訪シネマズ認定セレモニー開催
- ③映画「怪物」諏訪エリア巡回パネル展の開催
- ④映画「怪物」ロケ地サイクルツアーの開催  
(モニターツアー1回、リアルツアー1回)・「#怪物ロケ地」で投稿するInstagramフォトキャンペーンの開催
- ⑤地元事業者と連携した地域密着型の「怪物」フェスの開催



【「怪物」是枝監督トークショー】

### 事業効果

- ①欲しい情報を網羅し、誰でもロケ地巡りができるようなMAP及びロケ地特設サイトを作成したことで、県内外から多くの「怪物」ファンがロケ地巡りに訪れた。
- ②ロケ地となった地元の盛り上がりの形成及びシビックプライドを醸成することができた。また、諏訪地域のロケ協力体制の強化に繋がった。
- ③諏訪地域6市町村の各所(10ヵ所以上)でパネル展を開催し、ロケ地となった諏訪地域でしか見られない撮影風景などのパネルを展示し、フィルムコミッション活動の認知度向上、「怪物」ファンの増加に繋がった。
- ④映画のロケ地とサイクリングを融合させ、新たな視点によるサイクルツーリズムを推進させた。リアルサイクルツアーでは県外からの参加者が9割以上であった。また、インスタキャンペーンでは、243件の応募があり、ロケ地周遊を促進することができた。
- ⑤怪物フェス及び映画美術セット展示期間中、県外1135名以上、県内716名以上、国外11名以上の来場があった。

### 工夫・苦勞した点、課題、今後の取組など

諏訪地域のロケ地としての認知度、また、ロケ作品が増加傾向にある。近年では「怪物(2023年公開)」だけでなく、映画「百花」(2022年公開)、映画「ゴジラ-1.0」(2023年公開)、映画「悪は存在しない」(2024年公開)など後を絶たない。今回の映画「怪物」の事業を通して、映画のロケ地となることは、映画の持つブランド力やキャストの話題性を活用して国内だけでなく世界中へ『諏訪地域』を発信するチャンスに繋がることが確認できたとともに、一時的な事業ではなく、継続的な事業として発展させていく必要性を感じた。今後は、諏訪地域に訪れる作品のファンがいつでも楽しむことができ、交流人口・関係人口の増加に繋げる為の【拠点】となる場所を創出するなどの事業にも取り組んでいきたい。

#### 【選定のポイント】

ロケ地を活用したPRイベントや周遊マップの作成を通じ、地域への更なる観光誘客や経済効果が期待される。

団体名：諏訪地方観光連盟	事業タイプ	ソフト事業
連絡先：0266-52-4141 (内線 421)	事業費	2,806,483円
HP：https://www.suwa-tourism.jp/	支援金額	2,242,000円
Mail：kankou@city.suwa.lg.jp		

## 信州飯島風街道りんりん祭 2023

### 取組に至る背景・事業の目的

- 飯島町は、中央アルプス・南アルプスの2つのアルプスを望み、両アルプスからの風が吹き抜ける町である。
- 飯島風鈴街道実行委員会は、町の活性化、知名度の向上、住民の郷土愛の醸成を目的として、地域特性である、アルプスおろしの「風」を活用した、新しいお祭りを企画・運営している。
- コロナ禍の影響受けながらも、2021年、2022年の2年間にわたり、地域内において風鈴(6,500個)ややぐらの制作を行い、併せて風鈴の展示とイベントを兼ねた「りんりん祭」を開催。
- 飯島町における新たなお祭りの創出となったほか、交流人口の増加に寄与してきた。

### 事業内容

- 信州飯島風街道 りんりん祭 2023
  - ・実施時期：令和5年8月12日(土)～13日(日)
  - ・展示期間：令和5年8月11日(金)～14日(月)
  - ・実施場所：飯島町役場周辺
  - ・来場者数：約5,000名(12日本祭)  
約1,500名(13日後夜祭)
  - ・内容：風鈴10,000個の展示  
ステージ発表、飲食・ワークショップ等店舗出店



【風鈴街道（ライトアップ時）】

過去2年で制作した風鈴6,500個に加え、新たに3,500個を作成した。この計10,000個の風鈴を展示し、ギネス世界記録の認定を受けた。風鈴は中川村の事業者から、短冊は地域自立支援所から購入。

### 事業効果

- 「りんりん祭」の2日間に延べ約6,500人が来場し、集客が見込めるイベントに成長した。テレビ、新聞等多くのメディアで取り上げられ、飯島町のPRにつながった。
- 多くの住民やボランティアの協力により実施したことに加え、ギネス世界記録の認定を受けたことにより、住民の郷土愛の醸成に寄与した。
- ギネス世界記録の認定により、「世界一の風鈴の町」として、飯島町及び伊那谷のPRを行うことができた。
- 風鈴及びやぐらの制作には多くの住民の参加を促し、共に町を盛り上げる取組となっている。

### 工夫・苦勞した点、課題、今後の取組など

- 「ギネス世界記録」という目標に向かって数年にわたって風鈴ややぐらを制作することで、記録やモノ(風鈴)が残り持続的なイベントとなるよう工夫した。
- イベントの売上や出店料で採算をとることが難しい実情があるが、来場者の満足度が高く、集客できる「りんりん祭」へと昇華させていくことが重要と捉えてる。
- 「ギネス世界記録」や「りんりん祭」が一過性のものにならないよう、地域をあげて「風」や「地域特性」によるまちづくりに取り組みたいと考えている。

#### 【選定のポイント】

本事業は、「風」を地域資源として取り上げ、風鈴イベントにまで発展させた点に工夫が見られ、モデル性が認められる。また、当初、町の有志で始まった取組が、町役場や商工会などの団体や多くの町民を巻き込むようになった協働性もあり、地域一体となった取組となっている。

団体名 飯島風鈴街道実行委員会 連絡先 090-2301-8114 (事務局個人携帯) メール fuurinnkaidoujikkouinkai@gmail.com ホームページ <a href="https://www.rinrin-matsuri.com/">https://www.rinrin-matsuri.com/</a>	事業タイプ ソフト事業 事業費 4,012,700円 支援金額 3,100,000円
---	--

## 松本城・奈良井宿歴史ツーリズム事業

### 取組に至る背景・事業の目的

松本市及び塩尻市が持つ資源を「ブランド化」することによって、交流人口の拡大を図り地域経済の活性化に寄与することを目指し、三ヵ年の計画を立て、松本城周辺地域、奈良井宿において取組を実施し、双方の地域に関連する「歴史」(令和3年)「自然」(令和4年)をテーマにした観光資源の磨き上げを行った。

令和5年に最後のステップとして、地域と協働したコンテンツの拡充と活用(利用)度を向上させるため、地域のコンテンツを来訪者に伝え、更に魅力を向上させ、高付加価値化の追求を図れるガイドの体制強化・構築を目標とした。

### 事業内容

地域のコンテンツを来訪者に伝え、地域の魅力を向上させるためには、ガイドの体制強化と構築が必要であると考え、ガイドの育成と組織化を実施できた。

- ガイドの募集にあたっては TV メディアの活用により、ガイド人材の掘り起こしを行った。
- 地域のブランドコンテンツである①歴史・文化、②自然を中心に、これまで着地コンテンツや商品造成を進めてきた。そのテーマに沿ったガイド育成を行うため、次の事業を実施した。
  - 1 検討会 (4回実施)
  - 2 ガイド育成研修会 (8回実施) 36名登録
  - 3 実地研修 (1回実施)



【ガイド研修】

### 事業効果

- ・「ガイド」を地域の魅力コンテンツを伝えるための必須条件と位置づけ、年齢・性別等々に関係なく、ガイドという技量を職につなげることとし、地域の雇用の拡大・促進にもつなげた
- ・育成プログラムの実施をメディア等の活用で発信し、塩尻・松本地域の魅力発信・誘客行動・地域の観光地としてのポテンシャルも同時に発信した。
- ・初年度登録人員 36名
- ・メディア活用による塩尻・松本地域の魅力発信・誘客行動・地域の観光地としてのポテンシャルの同時発信 40回

### 工夫・苦勞した点、課題、今後の取組など

塩尻市観光協会と連携し、協会のツアーやファミトリップ、モニターツアーを活用して、登録したガイドの育成を継続して実施し、ガイドの質の向上を図っていく

選ばれる観光地となるには、良いガイドがいることが絶対条件であると考えている。特に、インバウンド観光を進めていくには、今後もガイドを含めた地域コンテンツの魅力を積極的に発信することが必要であり、商談会やHP等で実施していく。

来年度以降も、ガイドの育成や募集を継続し、主体性を持って取り組んでいただける事業者の方との連携を増やし続けることで、持続的な受け入れ体制整備へと加速させる。

#### 【選定のポイント】

- ・地域コンテンツを伝えるガイドという仕事を魅力的に発信し、ガイド人材の発掘に成功した好事例。今後、インバウンド対応可能なガイドの育成に期待したい。
- ・観光という主要な分野において、極めて重要な取り組みであり、今後の外部からの集客にあたっては喫緊の課題を克服する事業であり、その起点となる点を評価。

団体名	松本城・奈良井宿歴史ツーリズム事業実行委員会	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	JTB 長野支店松本オフィス内 担当矢島	事業費	3,355,000円
メールアドレス	y_yajima550@jtb.com	支援金額	2,684,000円

## 大糸線利用促進事業

### 取組に至る背景・事業の目的

J R大糸線は、観光をはじめ、住民の足として重要な役割を担う北アルプス地域の大動脈である。住民や行政等関係機関が一体となって、大糸線の周辺景観の向上と観光地への誘客を促進するための取組を行い、大糸線の利用を促進し、特色ある観光地づくりを目指す。

### 事業内容

- アクリルスタンドを景品としたガチャガチャ設置
  - ・南小谷駅から糸魚川駅までの9駅をテーマにアクリルスタンドをカプセルに封入
  - ・アクリルスタンドに凹凸を設けて9駅を繋げられ、9駅すべてを集めたときにパノラマが完成
- 設置場所：糸魚川駅及び南小谷駅、小谷村図書館
- 車窓からの景観確保(支障木伐採)4箇所  
大糸線沿線支障木の伐採を4箇所実施



【ガチャガチャ】

### 事業効果

- ・アクリルスタンドを景品としたガチャガチャ設置  
景品数は当初計画の900個が2カ月弱で完売し、急遽追加で発注することとなった。大糸線の新たな魅力発信ツールとして定着した。
- ・車窓からの景観確保(支障木伐採)4箇所  
大糸線沿線の4箇所、中土駅、番場地区、平間地区、宮本地区のそれぞれ姫川側の支障木を伐採することで車窓からの視界が開け、大糸線乗車の魅力向上を図ることが出来た。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

大糸線の魅力を伝えていくために、「車窓の眺め」と「グッズの製作・販売」を行ったが、利用を促進する方法として、様々なアイデアやターゲットが想定される。

引き続き大糸線利用促進に向けて継続した取組を実施し、住民や民間事業者と連携する中で魅力ある情報発信とイベント企画をしていく。

#### 【選定のポイント】

大糸線乗車時の楽しみを創出するため、糸魚川駅から南小谷駅までの9駅をテーマにしたアクリルスタンドを景品とするガチャガチャを設置し、新たな魅力発信ツールとして大糸線の魅力を再発見する契機となった。また、車窓からの農山村の風景を楽しむため、視界を遮る雑木を伐採したことにより、大糸線乗車の魅力向上が図られた。

大糸線魅力向上への地域全体の取組が広く展開され、利用促進に繋がることを期待する。

団体名	小谷村大糸線振興会議	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	0261-82-2585	事業費	6,321,320円
		支援金額	4,750,000円

## インバウンドの聖地山ノ内町での外国語実践研修&人材育成事業

### 取組に至る背景・事業の目的

山ノ内町は、湯田中渋温泉郷・志賀高原という一大観光地を抱え、県内でも有数の観光地として知られている。年間観光客数は300万人を超える一方、観光業を支える人手・人材不足が進み、地域や山ノ内町に愛着を持ち将来を担う人材育成が急務である。

この課題を解決するため、高校生・専門学校生及び大学生を対象に、旅館経営や観光学等を学ぶインターンシップを行い、観光業の理解や就業促進を目指す。

### 事業内容

○やまのうちまちインターンシップの開催（3回開催）

町内の旅館・ホテルにおいて、観光学や旅館経営学等を学ぶ座学及び接客等について学ぶ現地研修を行った。また令和5年度は、新たにインバウンド客の対応を学生が行う外国語実践研修を実施し、留学せずとも外国語を学びたい学生とインバウンド客を受け入れたい旅館等のニーズに応えようとする取り組みだ。

・開催時期及び参加者数

【2023夏】令和5年7月15日～10月11日 52名

【日帰りプログラム】令和5年11月10日 29名

【2024冬】令和6年1月5日～3月25日 29名

参加者計 110名

・事業内容

- 1 座学(観光学、山ノ内町について、旅館経営学、地域活性化、ホテル英語等)
- 2 現地での研修(旅館研修、アクティビティ研修、フィールドワーク)
- 3 外国語実践研修(インバウンド客対応を学生が行う)



【フロント研修】



【外国の大学生とのインターンシップ】

### 事業効果

- ・3年間で県内外の大学・専門学校等のべ47校・330人の参加があり、そのうち25%が観光業に、数名が町内の旅館に就職した。
- ・座学だけでなく、学生が現地で接客等を学ぶことにより観光業への就業に理解を深めることができた。
- ・各宿泊施設では、学生の就業体験の感想により、採用活動へのヒントを得ることができた。
- ・インバウンド客の対応に苦慮していた宿泊施設では、学生の接客サポートにより、お客様の滞在満足度の向上、学生の外国語の習得・上達、宿泊施設の売上増加につながった。

### 工夫・苦勞した点、課題、今後の取組など

大学との共同開催により、安定的に学生数を確保することが出来た。学生には、事前勉強会等で様々な大学の講座を用意し、観光業への就業の機運醸成を図ることが出来た。参加者は首都圏の学生が多かったため、今後は県内大学とも連携し地元就職につなげられるプログラムを展開したい。

#### 【選定のポイント】

観光業の担い手確保に向けて、大学等と連携し観光に特化したインターンシップはモデル性が高い。また、参加者の観光業への就職につながった。今後は、全県での事業展開を見込んでおり、一層の観光業の人材確保や交流人口・関係人口創出に期待できる。

団体名	(一社) 観光教育・インターンシップセンター	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	0269 - 38 - 0311(渋温泉小石屋旅館内)	事業費	1,369,985円
	<a href="http://te-ic.com/">http://te-ic.com/</a>	支援金額	997,000円
	<a href="mailto:info@te-ic.com">info@te-ic.com</a>		

## 放置竹林を楽しく解決し、佐久広域の森と農の振興を目指す

### 取組に至る背景・事業の目的

佐久地域では、放置竹林の問題が顕在化しており、竹林からの大雨による地滑りや火災の危険性などさまざまな悪影響が指摘されている。

そういった放置竹林や環境の問題を身近に感じるためのイベントを企画・実施した。

### 事業内容

- 1 農業や森に親しむためのイベント  
竹パウダーの使い方や森林についてのお話会やワークショップ
- 2 竹パウダー、竹炭の製造体験イベント  
実際の放置竹林でパウダーや竹炭の製造体験と、使い方のレクチャーなど



【竹炭作成体験イベントの様子】

### 事業効果

- 1 イベント実施により、自分の暮らす地域の環境に興味を持ってもらう機会となった。
- 2 参加者が作成した竹炭等を持ち帰って使用してもらい SNS 等で発信を求めた。また自作のパンフレット等を配布し、認知度向上に務めることができた。
- 3 フェイスブックページのフォロワー数 100 名突破(2024 年 2 月末時点で 117 名) いいね数 83 名と合わせると、200 名突破を達成

### 工夫・苦勞した点、課題、今後の取組など

放置竹林や環境の問題は、今後も続いていく地域の課題である。

その一方、竹炭・竹パウダーは農業用の肥料や家畜の飼料としての利用が可能で、昨今の燃料・飼料高や地産地消の観点からも注目が集まっている。

本年度に引き続き、来年以降もイベント実施や放置竹林を活用した竹炭・竹パウダー製造を継続することにより、啓蒙を続けていく。

本年度は、昨年よりもイベント参加者や SNS フォロワーは増加した。今後も地道に活動していくことにより、徐々に地域の放置竹林への関心を高めていきたいと考えている。

### 【選定のポイント】

地域の課題をソーシャルビジネスで解決しようとする先進的な取組であり、県内の他の地域の参考になる事業である。

団体名 millplot ホームページ <a href="http://www.millplot.org/">http://www.millplot.org/</a>	事業タイプ ソフト・ハード事業 事業費 802,080円 支援金額 617,000円
--	--

**令和5年度「小諸ワイン」50周年記念事業  
～これからの『小諸ワイン』ブランド化に向けて～**

**取組に至る背景・事業の目的**

小諸市はワイン用ぶどうづくりに適した気候・風土であり、2023年は最初にワイン用ぶどうが栽培されてから50周年の節目の年である。

近年、市内ではワイナリーが増加しており、小諸産のワインが各種コンクールで受賞する等「小諸ワイン」への注目度が高まっている。

50周年の節目に、小諸のワインを「小諸ブランド」として地位を確立していくきっかけづくりを行う。

**事業内容**

小諸ワインブランド化、地域の機運の醸成のために以下の事業を実施した。

- ① 『50th Anniversary』  
KOMORO WINE DAYS 2023 NIGHT
- ② 市民向けワイン講座（小学生対象）
- ③ ・『50th Anniversary』  
KOMORO WINE BRAND—NEW DAYS 2023 秋  
・『50th Anniversary』  
KOMORO WINE プロモーションイベント



【『50th Anniversary』KOMORO WINE BRAND—NEW DAYS 2023 秋】

**事業効果**

- ① 『50th Anniversary』KOMORO WINE DAYS 2023 NIGHT 来場者：約2,000人（3時間）
- ② 市民向けワイン講座 参加者：30名（親子）
- ③ ・『50th Anniversary』KOMORO WINE BRAND—NEW DAYS 2023 秋  
・『50th Anniversary』KOMORO WINE プロモーションイベント 来場者：約4,000人（6時間）

**工夫・苦労した点、課題、今後の取組など**

小諸ワイン50周年を迎えた記念として、千曲川ワインバレー特区内のメインイベントとして開催した。一過性の盛り上がりで終わらせることなく、これまで培ってきた関係機関との連携そのものをレガシーとして、「小諸ワイン」を次のフェーズに格上げし、今後も小諸ワインのブランド化を力強く推進していきたい。

**【選定のポイント】**  
各イベントやプロモーションで多くの参加者・視聴者があり、ブランド化に向けて住民に対する認知度向上につながった。

団体名 小諸市	事業タイプ	ソフト事業
	事業費	4,576,000円
	支援金額	3,660,000円

## 南アルプス最南部山岳遭難防止対策事業

### 取組に至る背景・事業の目的

#### (背景)

令和3年度は遠山郷から聖岳及び光岳への登山者数が大きく伸びた一方、山岳遭難が多く発生し、死亡・行方不明者は4人を数え、山岳遭難者に占める死亡・行方不明者の割合は他の山域に比較し非常に高いものとなった。当山域は元々登山者数が少ない上、単独行の比率が高く、さらに携帯電話不感地域であり、目撃証言が殆どない状況で遭難現場の特定が非常に困難であり、必死の捜索にもかかわらず遭難者の殆どが死亡・行方不明事故になるという他山域には見られない特徴がある。この山域に多くの登山客を迎え入れるためにも、このことに対する迅速な対応が求められていた。

#### (目的)

- ・山岳遭難現場の特定がしづらい山域特性に対応する対策の具体化
- ・最新のIT技術を活用した遭難防止・捜索対策のビルトイン
- ・地域の山岳関係者、観光関係団体と連携した態勢の確立

### 事業内容

- ・登山届出アプリ「コンパス」と連携した地域限定登山届の開発・普及  
令和4年に完成した簡略登山届出システムを利用できるカードを登山相談所で配布し、利用促進を図った。
- ・遭難場所探知サービス「ココヘリ」端末の申込・手交システムの運用  
IT技術を駆使した遭難場所探知サービス端末の手交・回収業務を運用した。
- ・登山相談所の設置  
相談員の配置及び大型山域地図パネルによる遭難を防止するために必要な情報提供活動を行った。
- ・登山情報チラシの配布  
この山域の入山者が承知すべき情報を記載したチラシを配布した。[時期・配布場所]7月中旬から 登山相談所、宿泊施設
- ・全山調査  
シーズンの前に山小屋、登山道(危険ヶ所)、トイレ、通信状況等を調査した。また、令和5年6月2日の梅雨前線と台風による被害状況も調査し、安全な登山に必要な当面の対策を関係機関・団体に提言した。



【芝沢ゲートに設置した登山相談所】

### 事業効果

- ・ITを活用した遭難防止・現場探知のための活動をIT事業者と地域の協力を得ながら実施できた。
- ・遭難による死亡・行方不明者をゼロとすることができ、危ない山域との「風評」は立たず、登山者の更なる増加が見込めることとなった。

### 工夫・苦勞した点、課題、今後の取組など

- ・令和4～5年度の活動をベースに、この山域の遭難による死亡・行方不明者をゼロにする取り組みを地域内の山岳関係者と連携して継続する。

#### 【選定のポイント】

登山相談所の設置と相談員の配置を行い登山者の遭難防止に取り組み、ICTを活用した遭難防止のための仕組みを導入する等、画期的・多面的なアプローチにより登山者の安全意識向上と遭難防止に寄与した。

団体名 一般社団法人南信州山岳文化伝統の会 ホームページ <a href="https://www.mstb.jp/sangakubunka/">https://www.mstb.jp/sangakubunka/</a>	事業タイプ 事業費 支援金額	ソフト・ハード事業 1,268,700円 808,000円
--	----------------------	-------------------------------------

## 水田耕作放棄地をもち麦に転作活用し商品化を目指す事業

### 取組に至る背景・事業の目的

麻績等で大きな課題となっている耕作放棄地を解消するため、食感が良くまた健康によいといわれる水溶性食物繊維が豊富に含まれることで推奨されている、もち性大麦「ホワイトファイバー」の栽培を行うことで、耕作放棄地の減少と、雇用の創出、地域の特産品の創出を目指す。

### 事業内容

- もち性大麦「ホワイトファイバー」の作付けによる、耕作放棄地の活用
- 精麦機導入による、もち麦やもち麦粉、またポン菓子素材を使った、村内飲食店や筑北中学と連携したメニュー作り
- 麻績メッセに出店し、もち麦やもち麦活用商品のPR
- スマート農業への実証実験  
(田植え機自動運転、水田水管理システム、ヤンマーラジコン草刈り機、スパイダーモア)
- 麦収穫後の圃場に緑肥効果を狙いドローンによる大豆散布を実施。



【OMIMOの開発商品】

### 事業効果

- ・耕作放棄地活用面積の拡大：R4年 150 アール → R5年 170 アール（前年比 13%増）
- ・もち性大麦「ホワイトファイバー」収穫量：R4年 600kg → R5年 1,175kg
- ・もち麦のラインナップ 4 商品及びコメのポン菓子商品化 3 種（3 年間）
- ・銀座 NAGANO で開催された、棚田フェアにもち麦商品を出品
- ・麦専用乾燥機の導入による品質の安定と作業効率の向上

### 工夫・苦勞した点、課題、今後の取組など

令和 1 年から事業を実施してきたが、もち麦が耕作放棄地の有効利用になりえると実感した。商品化も達成でき、その基盤づくりもできた。次年度、OMIMO の法人化を計画しており、組織の強化と経営の安定を図りながら、今後増加する耕作放棄地を借り受けられる体制を整えていく。

また、次世代が副業として稼げることを目指しながら、しっかり対価が払えるようもち麦を主力に様々な商談会等に参加し販売を強化していく。様々な制度を利用して、スマート農業の取り組みを進め、更なる省力化を進めていく。

#### 【選定のポイント】

- ・地域の資源保全や SDGs に沿った素晴らしい取組であり、今後も発展していくことが期待できる。
- ・社会の需要をふまえた新たな農産品の開発・量産という極めて重要な事業であるため、大きな期待を込めて評価。

団体名	OMIMO	事業タイプ	ハード事業
連絡先	090-9664-6725	事業費	1,550,600円
メールアドレス	y-kubota@yrmsys.com	支援金額	1,162,000円

## 小谷村伊折地区の新地域特産物のブランド化推進事業

### 取組に至る背景・事業の目的

伊折農業生産組合では、発足以来、地区住民の協働により特産品の生産・販売を行い、地区の農産物のブランド化に取り組むとともに、地区の景観の維持や水田の維持に努めてきたが、組合員の高齢化等により働き手が減少しており、従来の生産の維持が難しくなっている。また、新型コロナウイルス感染症の影響により販売先が縮小しており、新たな販売方法への転換が必要となっている。

高齢化・過疎化に対応した持続可能な生産システムの構築及びウィズコロナ等に対応できる販売方法の検証を行い、新たな体制づくりに取り組む必要がある。

令和3年度からは、比較的少ない労働力でも持続的に生産できる農産物として、ハーブ、エディブルフラワー等の試験栽培等を行った。

### 事業内容

- ・令和3年度、4年度に取り組んできた栽培方法や栽培環境の検証結果を踏まえて、ハーブを加工品にするための栽培管理を重点的に実施。  
規模：9a（令和5年度 1a追加）
- ・ハーブ等の商品化に向けて、豆茶やハーブスパイスを試作。
- ・ハーブ等を活用した子どもと作るアウトドアレシピを開発。
- ・伊折産ハーブ等を活用したワークショップを実施（計4回）。



【ハーブ等を活用したWSの様子】

### 事業効果

- 栽培管理等
  - ・これまでの試行・検証結果を受けて、収益性の高いハーブを中心に生産を行うことで、作業時間の短縮や人員の削減（人件費：令和4年度比5%減）につながった。
- 加工品試作
  - ・伊折産黒豆・青豆・小豆とハーブのブレンドティー、ハーブソルト・エディブルシュガーを試作。
- キット商品開発
  - ・レシピ開発及び試食会を行った。
- 伊折産ハーブ等を活用したワークショップ
  - ・4回開催 延べ参加者 大人100名、子ども50名

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

令和3年度から令和5年度にかけて、ハーブの栽培や加工に取り組み、活動を通じて子育て世代の方にも持続可能な農業や里山の暮らしに関心をもっていただいた。

今後は、農業体験のバリエーションを増やし、子ども達など若い世代にも里山の暮らしや農産物を身近に感じてもらえるような取り組みを続けていく。

#### 【選定のポイント】

栽培したハーブ等の加工品試作やレシピ開発を行ったほか、ハーブ等を活用するワークショップを開催し、新農産物のブランド化を進めた。引き続き作業の効率化・省力化や顧客の確保に取り組み、高齢化や短時間労働にも対応した持続可能な農業モデルが構築されることを期待する。

団体名	伊折農業生産組合	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	0261-82-2230 yukiwarisou.iori@gmail.com	事業費	904,830円
		支援金額	722,000円

# ソルガムコンソーシアム事業

## 取組に至る背景・事業の目的

自然災害の増加は、地球温暖化が要因と言われており、2050 ゼロカーボンの実現を目指す強い動機付けとなっている。また、長野県は多くの中山間地を抱え、地域を担う人口の減少から耕作放棄地等が増え続けている。

元気づくり支援金活用3年目の令和5年度は、「ソルガムコンソーシアム事業の認知度向上及び普及促進活動の拡大 ～ソルガムを食べて脱炭素！～（ソルガム認知度の向上と作付け面積の拡大に向けた活動）」をテーマに、アレルゲンフリー、省力栽培、バイオエネルギー素材等の利点を持つ穀物「ソルガム」を軸に、産官学の多様な主体がコンソーシアムとして、農福マッチングの検討会、栽培講習会、料理教室、マルシェ等を実施し、耕作放棄地等の解消、6次産業化による利用促進に取り組む。

## 事業内容

- 事業認知度向上活動及び「ソルガム」の6次産業化に向けた取組
  - ・農福検討／意見交換（6回）
  - ・栽培講習会（2回）
  - ・1家庭1ソルガム運動
  - ・地域と連携したソルガム料理教室
  - ・展示会出展
  - ・成果報告会&そるがむマルシェの実施
  - ・延べ23万世帯への広告宣伝活動の実施
  - ・ソルガムを見て、食べて、購入する会の開催



【 そるがむマルシェの様子 】

## 事業効果

- 事業認知度向上
 

購買層（生産年齢人口）において、活動初年度と比較してソルガム認知度は33%向上し、ソルガムの食経験者は56%増加した。
- 「ソルガム」の6次産業化
 

販売を行った出展者により昨年と比較して更に8品目以上のソルガム関連商品が自主開発された。展示・即売会では、1出展者あたり6時間で3.5万円以上の売り上げを実現。全出展者で推定今後継続して販売した場合、15事業者で5,250万円/年～10,500万円/年程度の売り上げ（経済効果）が見込まれる。

## 工夫・苦勞した点、課題、今後の取組など

- 成功モデルの拡充：社会福祉事業所等によるソルガム作付けと6次産業化を成功モデルとして、伴走を継続実施する。
- 子実流通量の拡大：ソルガムの食経験→食習慣へ移行するため作付け面積の拡大とともに、販売強化活動を推進する。
- 事業認知度の向上：栽培講習会、展示会、料理教室など地域と連携した活動は継続実施する。
- 茎葉流通と事業化：ソルガムの茎葉を用いた新たな流通網を構築し、販路と利用を実現する。

**【選定のポイント】**  
 多様な主体が個々の特性やつながりを生かして取り組むことにより、

- ・学校給食における活用、パン、クッキー等の商品化やアンテナショップの開店
- ・企業、就業継続支援事業所による生産から商品化までの一体的な事業化
- ・ソルガムの茎葉を利用したバイオブリケットの活用

等につながるなど、ソルガムを通じた更なる地域の活性化や脱炭素社会の推進が期待される。

団体名	信州そるがむで地域を元気にする会	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	026-269-5700	事業費	1,464,088円
ホームページ	<a href="https://sites.google.com/gm.shinshu-u.ac.jp/sorghum-genki/home">https://sites.google.com/gm.shinshu-u.ac.jp/sorghum-genki/home</a>	支援金額	1,052,000円

## ～ママパパがデザインする伊那まち～ 伊那まちサステナブルライフデザインプロジェクト事業

### 取組に至る背景・事業の目的

- かつて賑わいのあった伊那市中心市街地は、大規模店舗の出店や、商店主の高齢化・後継者不足等による空き店舗の増加など、中心市街地の空洞化が慢性的に続き、商店街自体の認知度も低下している。
- 地域経済の持続可能な発展と活性化のため、時代に沿った新しい魅力の創造と賑わいを、伊那市中心市街地から創出する取組が必要である。
- 令和4年度から本支援金を活用し、子育て世代をターゲットとしたイベントを実施したところ、多くの家族連れが街を訪れ、商店街に賑わいや活気ある光景をみることができたほか、地元の子どもたちや商店主ら、地元地域を主体とした協働による取組を行う仕組みづくりの構築がされ始めた。

### 事業内容

- 中心市街地賑わい創出イベント（歩行者天国等）の開催とインフルエンサーによる情報発信、商店街の魅力をPRした動画の配信
  - ・伊那まちバラジャズストリート（6月）
  - ・伊那まちファミリーフェスタ2023“ファミフェス”（7月）
  - ・ハートフル商店街いなまちクリスマス！（12月）
- いなまち子育てマップ第2弾の作成  
親子連れでも安心して街歩きができるように、アンケートや子育て世代からの意見聴取を経て、バージョンアップしたいなまち子育てマップ第2弾を作成



【賑わう商店街の様子】

### 事業効果

- 継続的な事業実施により、イベントの定着性と商店街に対する認知度の向上に繋げ、大人から子供まで中心市街地商店街への誘客するきっかけと賑わいを生み出した。
- 街での過ごし方の提案を行ったこと、安心して遊ぶことのできる憩いの場所としてセントラルパークの認知度が向上したことで、新たな伊那まちファンづくりへ繋げることができた。
- 昨年度制作した街歩き用の子育てマップに掲載した店舗に対し行ったモニター調査や、駐車場周辺の親子連れでも安心して訪れることができる飲食店の追加により、更に充実した内容の第2弾マップを制作することができた。
- 歩行者天国イベント等では、歩行者天国の沿道以外の店舗や、各種団体にも出店が広がり、新たなネットワークを構築して事業発展に繋げた。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 地元の子供たち（小学生、中学生、高校生）、地元企業や各種団体がイベントに参加したり、地元商店主らが自らイベントを企画したりと、地域が主体となり活動を進めた。また、歩行者天国にあたり、警察・行政・地区役員の理解・協力を得ることで、安全に配慮したイベントの実施ができた。
- 子育てマップ第2弾では、ターゲット層の家族連れが店舗を訪問した際の意見、また、アンケートにより要望があった点を取り入れ、より充実したマップを作成できた。
- アンケート結果から約7割の参加者が令和4年の商店街イベントに参加しており、定着が進んできていることがわかった。今後は、アンケートに基づき、より効率的な周知を図る。また、SNSにてイベント紹介動画を発信したが、より効果のある方法を模索していく。

### 【選定のポイント】

賑わいイベントの開催や、街歩きマップの作成により、子育て世代が日常的に商店街へ訪れるきっかけを創出した。子育てに優しいまちづくりへの意識醸成にもつながった。地元商店主が自らイベントを企画する等、地域主体の活動も根付いてきており、今後も商店街が子育て世代の憩いの場となるような取組が期待できる。

団体名	伊那商工会議所	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	0265-72-7000	事業費	2,206,280円
	sosin@inacci.or.jp	支援金額	1,765,000円

## 信州松本うらまちレジリエンス・プロジェクト

### 取組に至る背景・事業の目的

松本うらまち地区（松本市城東周辺）は、松本城と2017年開店の大型商業施設の中間地点に立地し、中町通り、縄手通りからも歩いてアクセスできる、中心市街地のかつての盛り場である。バブル崩壊以降、テナントの撤退が進み、空きビルが並ぶ通りとなっているが、中心市街地のにぎわい創出や回遊性確保の観点からみると、大きな役割と可能性を秘めている。そこで、本事業はうらまちにおいて「テナントが増える⇔にぎわいが増える」の好循環を改めて作り出すことを目的に据えた。

### 事業内容

- 中心市街地の回遊行動の中でうらまちを知ってもらい、訪れてもらうため、クラフト展示販売とマルシェを組み合わせ合わせた「うらまち探検プロジェクト2023」を実施
- うらまちを周知するため、うらまちや周辺店舗を紹介する刊行物「URA NO MAMA」を作成・配布
- 空き店舗の利活用を推進するため、空き店舗を案内する「空き店舗ツアー」、空き店舗を活用した出店計画づくりワークショップ「カフェをやってみよう」の実施
- うらまちを訪れるきっかけを定期的につくるため、オリジナル脚本による演劇公演（うらまちのレガシーを残していくため、松本城天守を守った市川量造をモチーフとした脚本）や、地元キャストの発掘・育成を行う演劇ワークショップを実施。



【うらまち探検プロジェクト2023】



【URA NO MAMA】

### 事業効果

- ・「うらまち探検プロジェクト2023」の開催  
：5/26～5/28 来場者延べ90人
- ・刊行物「URA NO MAMA」の発刊：3回（5月、10月、2月）
- ・空き店舗での新規開店：13店（令和3～5年の合計）
- ・演劇公演の開催：5月～3月で計16回 来場者延べ560人
- ・演劇ワークショップの開催：受講者7人



【演劇公演】

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

うらまちにおいて「テナントが増える⇔にぎわいが増える」の好循環は生まれ始めたところであり、この流れを確かなものとするためには、本事業を継続していくことが求められる。本協議会では、協議会メンバーや協力者とともに、元気づくり支援金による支援が終了した後の事業のあり方や体制について建設的な協議を重ねてきた。その結果、本事業の実行チームが中心となってNPO法人を設立し、本協議会と連携しながら「うらまち探検プロジェクト」「演劇公演」「空き店舗の活用」等の事業を継続していくことになっている。

うらまちの再生に向けて、うらまちの地域資源（立地や歴史的な背景が持つまちのイメージ、うらまちに興味・関心を持つ人々のネットワーク、空き店舗等）をこれまで以上に活用、自己強化ループを育てながら、持続可能なまちづくりを継続していく。

#### 【選定のポイント】

- ・3年間で空き店舗に13件の入居者を得て、着実に賑わい創出へ進んでいる他、最終年度にこれまでの総括を踏まえたアクションプランを作成し法人化計画が立てられていることから自立自走が期待でき、継続性・モデル性の点で評価できる。

団体名	信州松本うらまちレジリエンス協議会	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	050-8889-2225	事業費	6,981,200円
ホームページ	<a href="https://uramachi-pjt.jp/">https://uramachi-pjt.jp/</a>	支援金額	5,000,000円
メールアドレス	info@machi-collab.jp		

## 信州ものづくり革新スクール事業

### 取組に至る背景・事業の目的

県工業統計調査によると、諏訪地域製造業の事業所数は 764 社で、全県に占める割合は 16% である。一方で、粗付加価値額は約 2,455 億円であり、全県に占める割合は 10%。さら従業員一人当たり粗付加価値額は、全県が約 1,163 万円であるのに対し、諏訪地域は 913 万円と低い状況にある。以上のことから一人当たりの付加価値額 (= 労働生産性) の向上が課題となっている。

課題解決に向け、従来の現場の業務効率の改善に加え、デジタル化など新たな視点での業務改革、ビジネスの高付加価値化、評価制度の見直しなどの取組が必要である。中でも現場の生産革新を進め生産性を向上することが重要となる。こうしたことに対応できる人材を育成する教育の実施について、諏訪地域を中心に県内企業から要望を受けており、このスクールは、各企業が持っている「ものづくり技術」を最大限に発揮できる仕組みづくりと強い現場を構築できる人材の育成を目的としている。

### 事業内容

「信州ものづくり革新スクール」の開催

ものづくり企業の生産性を高め収益を向上させるための  
中核人材育成事業。

■ 研修期間 21 日間 (座学: 10 日間 現場実習: 9 日間  
成果報告会: 2 日間)

・ 募集開始 : 6 月初旬 (パンフレット配布、HP・メルマガ掲載、  
企業訪問)

・ スクール日程 : 8 月～12 月における 21 日間

■ 開催場所 : <座学> 諏訪商工会館 <現場実習> 諏訪地域 または 県内企業

■ 受講生数 : 12 名～15 名

■ 講師

- ・ 東京大学ものづくりインストラクター養成スクール修了者
- ・ ものづくり改善ネットワーク「ものづくりシニア塾」修了者
- ・ 信州ものづくり革新スクール修了生 (県内企業 OB、現役社員)

■ フォローアップ研修会 開催 (修了後、2 回/期 個人向け・現場実習)



【 成果発表会の様子 】

### 事業効果

- ・ 修了生累計数 112 名 (前事業から通期)  
生産現場の改善活動を指導できる人材を着実に育成している。
- ・ 生産現場での改善活動の指導力向上・実践実習 累計 22 社実施 (前事業から通期)  
諏訪地域 または 県内製造業の生産性向上を図る改善指導者のスキルアップに繋がっている。
- ・ 修了生は、自社企業の生産性向上に寄与し、ものづくり現場管理者の増員により、諏訪地域の製造業の付加価値額を高めることに繋がる。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- ・ 製造業界業績の悪化などにより新規企業の受講生集客に苦慮する面もある。
- ・ 「デジタル化による改善推進」などの新カリキュラムの導入。(継続課題)
- ・ 事業継続の財源の確保。
- ・ 7 期開催してきた中では数年に渡り、スクールに受講生を派遣する企業も多く、事業継続が望まれている。新しい発想でのスクール事業を開講することにより受講の促進を図り製造業の付加価値を高めたい。

#### 【選定のポイント】

産業人材の育成を通じ、スキルアップを図ることで、諏訪地域内企業の経営基盤強化・安定化や生産性の向上が期待される。

団体名	NPO 諏訪圏ものづくり推進機構	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	TEL 0266-54-2588	事業費	7, 174, 000 円
ホームページ	<a href="https://suwamo.jp">https://suwamo.jp</a>	支援金額	2, 674, 000 円
メールアドレス	kakushin_s@suwamo.jp		

## 高齢や障害（個人的な生きづらさ）を持っている方々の 外出のためのインフォーマルサービス創出事業

### 取組に至る背景・事業の目的

少子高齢化が進む我が国にあって、人口に占める高齢者や障害当事者の割合は3割以上を占めており、「旅行に行きたい」「あの場所で楽しみたい」「あの店のラーメンが食べたい」などの思いが、「訪問先の環境が整っていない」「家族や訪問先の関係者に迷惑を掛けてしまう」「訪問先の情報が不足していて不安な要素が多い」などの現状や、本人及び家族などの「心のバリア」を要因として、実現を妨げてしまっているケースが多く見受けられる。そんな、「行きたい場所へ行きたい！」「慣れ親しんだ南信州で楽しみたい！」という気持ちを叶えるために、南信州らしい「新たな外出支援（おでかけサポート）」について取組を進め、地域へ普及させることを目指した。

### 事業内容

- ◆キックオフシンポジウムの開催  
ユニバーサルツーリズムにおいて今後南信州地域が取り組んで行くべき方向性を共有できた。参加者 計 46 名。
- ◆プロモーション動画の制作  
要介護高齢者や障がい者を対象にした「新たな外出支援」の動画を撮影・編集・配信（4本作成）。チームのYouTubeチャンネルに投稿し情報発信を行った。
- ◆サポーター養成を目的とした教育用テキストの作成  
サポーター養成が課題となることからサポート現場で特に必要な「入浴サポート」のテキストを作成。研修会やモニターツアーで活用する。
- ◆バスリフトの購入と実証実験  
入浴サポート時の安全確保や介助者の身体的負担軽減を目的にバスリフトを購入し、温泉施設にて実証実験を実施。サポート現場での使用の目的が立ち、今後はサポート時の無料貸出しを実施する。



【プロモーション用動画制作】  
車いす YouTuber とコラボレーション

### 事業効果

- ① 当地域においてこれまでほとんど活動が見られなかったユニバーサルツーリズムにおいて、南信州シンポジウムの開催できたことにより、地域への普及が図れた。
- ② 本事業の活用により多様な情報発信が可能となり、動画制作・配信においては車いす YouTuber とのタイアップが叶い、また全国で総合福祉サービスを手掛ける企業のセミナーや兵庫県のユニバーサルツーリズム人材育成プロジェクトでの事例発表、更に複数の大学の講義で活動を紹介いただくなど、認知度向上の機会が格段に増えた。
- ③ 入浴サポート用テキスト作成とバスリフトの使用が可能となったことにより、最も負担がかかるリスクが生じる「入浴サポート」のケアができ、チーム以外にサポーターや仲間を作り、新たな事業展開を行うことの可能性が広がった。

### 工夫・苦勞した点、課題、今後の取組など

3年間継続して事業を行ったことで、この取組は観光や福祉・介護の領域のみに留まらないことを実感した。またユニバーサルツーリズムやインフォーマルサービスの推進は要介護高齢者や障害当事者やその家族・関係者に向けた意義や取組だけに留まらず、受け入れる地域が変化していくということも併せて感じた。高齢や病気・障害などを理由に「これが最後の旅行（外出）かもしれない」という思いで出かける方々を受け入れるには、地域住民や多様な関係者との関りが欠かせない。今後は、観光・福祉・介護・教育・学術的研究・インフラ（交通・公的施設）・商工業・地域などの垣根を越えて多様な関係性を築き上げることにより、高齢や障害の有無に関係なく、誰もが気兼ねなく楽しめる地域をこれからも目指していく。

#### 【選定のポイント】

事業を通じてユニバーサルツーリズムの発信や温浴施設へのアプローチ等当地域ならではの取り組みを行った。観光分野では誰でも楽しめる観光地としての認知度の向上や観光客の増加が、福祉分野ではインフォーマルサービスの普及拡大等、分野を跨いで波及効果が期待できる。

団体名	南信州おでかけチーム“ウィズ”	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	080-5147-3190	事業費	1,355,025円
担当	事務局（介護のかふね）幸森信良	支援金額	1,068,000円

## 女鳥羽川再発見プロジェクト 松本らしい暮らし方を学び体験事業

### 取組に至る背景・事業の目的

松本らしい暮らし方の学びや体験を通して、ひとりひとりが考えて、明日の松本の姿を思い描き、一歩を踏み出すきっかけになればとの思いから始まった『女鳥羽川再発見プロジェクト』のフィールドワークの中間着地点として、「地図」という形を借りて、女鳥羽川の魅力を発信する。

### 事業内容

中心市街地を流れる「女鳥羽川」の公共空間としての機能や可能性を広げるため、歴史、自然、交通、街との関わりなど『女鳥羽川再発見プロジェクト』計8回の講座フォールドワークを開催後、マップ制作・ワークショップ・シンポジウムなどを開催

- はじめての女鳥羽川マップ制作
- 女鳥羽川再発見プロジェクト連続講座及びワークショップの開催
- 地域住民、松本市担当者と女鳥羽川フィールドワークを開催
- 川をキーワードとした講演会・シンポジウムの開催
- 完成したマップを基としたフィールドワーク



【フィールドワーク】

### 事業効果

- ・ はじめての女鳥羽川マップ制作：計5種類3,000部  
市内小中学校及び公共機関等へ提供
- ・ 女鳥羽川再発見プロジェクト連続講座及びワークショップ参加者：26名
- ・ 講演会・シンポジウムの開催：参加者約120名
- ・ フィールドワーク参加者：30名

### 工夫・苦勞した点、課題、今後の取組など

制作した「はじめての女鳥羽川マップ」を活用した取り組みを継続していきたい。  
また 女鳥羽川で活動している団体へのマップ寄贈を継続してツアー や水辺の生物学習などに使用してもらい活動を応援していきたい。(3月2日松本市主催「外来種駆除講座」へも資料提供)  
女鳥羽川や中心市街地に関する講座やワークショップを市民の皆さんと共に開催していく。

#### 【選定のポイント】

- ・ 現場でのワークショップを通じて女鳥羽川の自然や歴史、暮らしを再発見し、それらを地図に表現し共有することでさらに学びを継続・発展していく着実な取組が評価できる

団体名 松本都市デザイン学習会	事業タイプ	ソフト事業
ホームページ	事業費	557,997円
<a href="https://www.facebook.com/matsumoto.urban.design">https://www.facebook.com/matsumoto.urban.design</a>	支援金額	446,000円
メールアドレス k.uocafe@gmail.com		

## 「自らの芸術祭」に向けた市民参加と協働促進プロジェクト

### 取組に至る背景・事業の目的

芸術文化による地域振興は、地域再生の取組みの一環であり、市民がこの地域や地域資源を再発見し、磨き上げることで、市のブランド力向上を図るものである。これにより、市民が地域への愛着と誇りを持ち、地域の活力を呼び起こしていく。さらに、芸術文化活動が持つ強い発信力を最大限に活用し、市への新たな人の流れを生み出し、交流・移住人口や定住人口の増加へも繋がることを目指す。

### 事業内容

#### ○地域共創セミナーの開催

市民等と地域課題を共有しながら、地域の魅力の再発見や郷土愛、市民意識の醸成を図る「北アルプスマほろば塾」を開催した。

- ・第1回 7月1日「木と芸術と遊びが地域を創る」  
大町市平公民館・女性みらい館ピュア 71名参加
- ・第2回 10月1日「水へのこだわり食とともに」  
大町温泉郷内 旧「くろべ路」 40名参加
- ・第3回 12月3日「アートと暮らし」  
ANAホリデイ・インリゾートくろよん 139名参加
- ・ワークショップ作品の展示 1月5日から1月18日  
大町市役所 本庁舎1階市民ホール



【第3回北アルプスマほろば塾の様子】

### 事業効果

- ・北アルプス国際芸術祭の開催に向け、ボランティアサポーター登録者の増加や、作品制作などへ積極的にご協力いただける方が増えるなど、市民参加が広がった。  
ボランティアサポーター：セミナー開催後40名増
- ・セミナーにご協力をいただいた市内林業者が、芸術祭におけるアート作品として出展するなど、この地域の魅力の再発見や発信などの取組みが芸術祭を契機にさらに広がりを見せた。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

令和6年9月13日から11月4日まで開催の「北アルプス国際芸術祭2024」会期中には、市内小中学生にてこれまで行ってきた、通常の「アート鑑賞会」に加え、芸術を中心に市の歴史や文化等、様々な分野を学びながら、「問い」による事前学習と「対話」による鑑賞を軸とする「アートスタディツアー」の取組みにより、芸術祭を学びの場として活用していく。また、作品制作にあたり、ボランティアサポーターだけでなく、小中学生や高校生、地元企業へ丁寧に説明を行いながら、地域全体での協働によって作品制作を進めていく。

#### 【選定のポイント】

芸術祭やアートを主軸として大町市の地域資源と、街の潜在的な魅力を再発見し地域の活力へとつなげることを目的としたセミナー（「木と芸術と遊びが地域を創る」など）を開催した。

大町市の自然や地域資源などを横断的に学ぶ機会を通じて、地域住民が地域の魅力を再発見し、北アルプス国際芸術祭に向けて市のブランド力向上につながることを期待する。

団体名	北アルプス国際芸術祭実行委員会	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	0261-85-0133	事業費	593,175円
		支援金額	456,000円